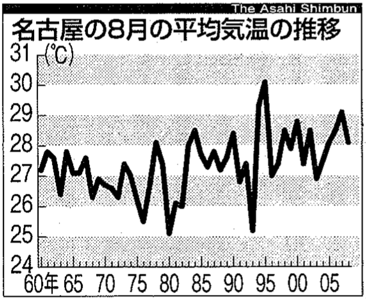
朝日新聞

東海経済

出した外壁用の「クールアイランドタイル」だ。

ケーブルテレビ会社のおりべネットワーク（同市）は1月に完成した新社屋にこのタイルを使った。同社の武田修営業部長は「地場産業の育成のために協力した。階段室に冷房がないので、少しでも涼しくなって欲しい」と話す。

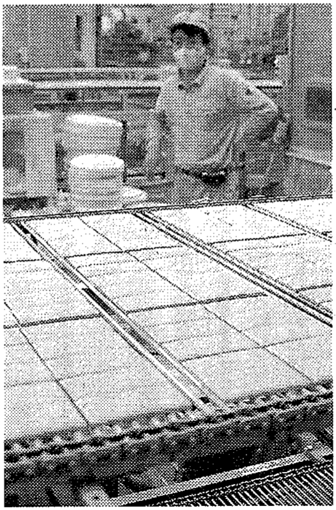
このタイルでなぜ、暑さが和らぐのか。37社で作る「美濃焼クールアイランドタイル



を吸収しないように、光の反射率が高い上薬を用いた。ヒートアイランド対策を研究する名古屋工業大（名古屋市昭和区）の学内グループ「都市温暖化対策技術研究会」が考え出した。

07年8月16日、多治見市は埼玉県熊谷市とともに40・9度を観測し、国内の最高気温

アイデアだった。



上薬を塗られ、ラインを次々と流れていくクール

のタイルを取り付けた

涼しくなる塗料や瓦も

暑さを和らげるための建材の製造・販売は、ほかでも進んでいる。

岐阜県安八町の松岡コンクリート工業は昨年5月から、外壁や屋根、路面などに塗ると涼しくなるという塗料「ロードクーラー」を発売した。この塗料も太陽光を上空に跳ね返す。

外壁などに白色の塗料を塗りながら、乾かないうちに球状で透明なビーズを吹き付ける。ビーズで太陽光が屈折し、光が入ってきたのと同じ方向に反射させる。ビーズはガラス製で、直径が0・2〜0・56ミリ。ビーズを壁面に吹き付けすぎると、ビーズ自体が熱を持ち、壁面や路面などがかえって熱くなる。そのため、吹き付けるのは面積の半分程度にとどめている。

昨年は学習塾や幼稚園、病院など15カ所で施工され、約2千万円の売り上げがあった。松岡重吉社長によると、今年はすでに1億8千万円分の見積もりが来ている。同社の年間売上高は約50億円なので、新たな事業の柱になりそうな勢いだ。

愛知県高浜市の三州瓦メーカー、新東は、瓦の表面にコケを取り付けた